

は遊び にくす

No.124 2024.7 ISSN:0287-8194

目次

- 「遊び」のなかには (井上 裕美子) ・ 1-2
- 図書館員がお薦めする 1冊 ・ ・ ・ 3-4
- 君に薦める一冊の本 (日置 和昭) ・ 5-6
- 図書館からのお知らせ ・ ・ ・ ・ ・ 7



「遊び」のなかには

大阪工業大学 情報科学部

ネットワークデザイン学科 教授 井上 裕美子

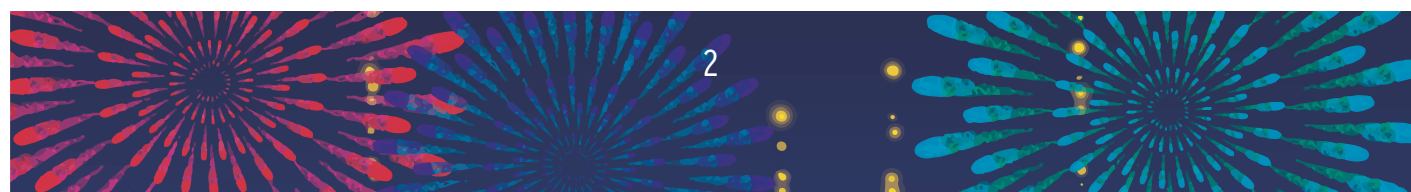
「遊び」と聞いて何を思い浮かべますか？鬼ごっこや、かくれんぼなどの子供の遊びでしょうか？それとも、車のハンドルなどのあそび（ゆとり）や、建築のあそび（接合部をきっちり締めずにあえて緩みをもたせる）でしょうか？遊びという言葉の中には、少し考えを巡らせただけでも、色々な意味が思い起こされます。中でも、人間の活動の中では、「遊び」は非常に重要な位置を占めていると思います。

大学に入学した直後に、「ホモ・ルーデンス」という本を読みました。ホモ・ルーデンスとは、「遊ぶヒト」という意味です。この本は、ヨハン・ホイジンガというオランダの歴史学者が 20 世紀初頭に書いたものです。人間の遊びとは何かを、歴史学、民俗学、言語学を駆使して分析し、人間の社会や文化が「遊び」によって生まれ、いかに発展してきたか、「遊び」こそ、人間の本質かもしれないということ論じています。膨大なデータと分析力に圧倒され、今読んでも全

く古さは感じず、約1世紀も前に書かれた本とは思えません。世界各国の「遊ぶ」という語を分析した中に、日本語の「遊び」の語の使われ方についても記されています。この本に触発されたフランスの社会学者のロジェ・カイヨワが書いた「遊びと人間」も、ぜひ合わせて読んでみて下さい。

日本では、「遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけん、遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ揺がるれ」という歌があります。これは、12世紀に後白河法皇が編まれた「梁塵秘抄」に記されている歌です。この歌には「遊び」という言葉が出てきています。解釈は色々あるようですが、「遊ぶ子どもの声を聞くと、大人の自分も声に合わせてつい体を揺すってしまうよ」と、つつい体を動かしてしまう人間の本质が表現されている歌ともいえます。

現代では、VRやAR、AIを用いた技術などが遊びの中に組み込まれ、遊び方も多面的になってきました。技術の発達により、現地に行かなくてもイベントに参加できたり、お店に行かなくてもネットで注文すれば、翌日に届いたりと利便性が高まりました。図書館では、データベースにアクセスすれば、関連論文や過去の新聞雑誌の記事等を検索閲覧できるなど、非常に便利になりました。ただ便利さの陰で1つ残念なことは、実際に体を動かす機会や「遊び」が少なくなったということです。ぜひ、今、あえて体を動かして体験してみてください。そして、図書館にも出かけてみて下さい。実際に図書館で本を手にとることで、キーワード検索では出てこなかった面白い論文や本が見つかるかもしれません。図書館には、色々な「遊び」がたくさん眠っています。思ってもいなかった出会いを探しに図書館に足を運んでみませんか。



『流』
著：東山彰良
出版社：講談社



大宮所蔵
請求記号：913.6||H
資料ID：91150568
配置場所：工大6F一般図書棚31
枚方所蔵
請求記号：913.6||H
資料ID：98150724
配置場所：工枚普通図書

台湾で幼少期を過ごした著者が描く、1970年代の台湾のある一家の物語。主人公が17歳の時、祖父が何者かに殺される。勉強はできた主人公だったが、替え玉受験のバイトをしたことをきっかけに不良高校へ。ケンカのシーンが非常に多く、さながらヤンキー小説とも見て取れる本書だが最後に祖父の真相に迫った時、大きな感動が待っている。常夏の台湾に生きる人々が色濃く描かれており、どっぷり世界に浸ることのできる小説。2015年、直木賞受賞作。

図書館員が お薦めする！冊

「勇気—それは人生を切り拓く剣だ」

この文章から物語は始まります。小学六年生の宏志とその友人たちはあるとき図書館で調べた中世の騎士団の存在を知り、自分たちも格好いい騎士団を作ろうとします。騎士団のメンバーは宏志を含めて三人。この騎士団の活動を始めてから彼らの特別な夏が始まります。

教室では目立たない宏志たちの勇気と友情に応援したくなります。カッコ悪いときもあるけど最後は「よかったね」と思える物語です。

『夏の騎士』
著：百田尚樹
出版社：新潮社



大宮所蔵
請求記号：913.6||H
資料ID：91190683
配置場所：工大6F一般図書棚31

『はい、泳げません』

著：高橋秀美
出版社：新潮社



梅田所蔵
請求記号：785.2||T
資料ID：97210561
配置場所：工梅原作本

「泳げない人に捧ぐ」とありますが、頬をゆるめながら読んで欲しい1冊です。幼少期のトラウマから水がこわくて仕方がない。そんな著者が40歳を過ぎて「泳げるようになりたい」と決意。「泳げる人は人間として何かが欠けている」などと愚痴をこぼしていた著者がまず「浮く」からはじめ「泳げる人」になるまでの抱腹絶倒奮闘記。混乱あり、悩みあり、笑いあり。何歳でも、その過程に苦しんでも、何かを克服しようとする姿はとても爽快です。

テーマは夏

“偽り母子の切なく愛情深い小説” 元不倫相手の子である乳児を誘拐し、偽りの親子として生き続ける女の逃亡劇と、女逮捕後、被害者である子どもがどんな人生を歩んでいったのかを克明に描いた物語。

“八日目の蟬”・・・

本文引用⇒「七日で死ぬよりも、八日目に生き残った蟬のほうがかなしいってあんたは言ったよね。私もずっとそう思っていたけど」…「それは違うかもね。八日目の蟬はほかの蟬には見られなかったものを見られるんだから。」

『八日目の蟬』というタイトルの意味を考えながら、読んでみてください！

『八日目の蟬』

著：角田光代
出版社：中央公論新社



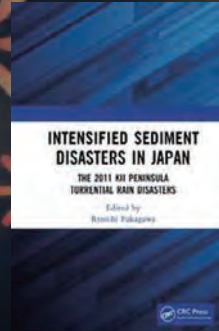
枚方所蔵
請求記号：080||C
資料ID：98110189
配置場所：工枚文庫本

君に薦める 一冊の本



工学部
都市デザイン工学科
教授 日置 和昭

『INTENSIFIED SEDIMENT DISASTERS IN JAPAN -THE 2011 KII PENINSULA TORRENTIAL RAIN DISASTERS』



【大宮本館】
配置場所 | 工大 4.5F 君に薦める
請求記号 | 369.3||F
資料 I D | 12400114

【梅田分館】
配置場所 | 工梅君に薦める
請求記号 | 369.3||F
資料 I D | 72400017

【枚方分館】
配置場所 | 工枚君に薦める
請求記号 | 369.3||F
資料 I D | 82400061

編者名 | Ryoichi Fukagawa 編
出版社 | CRC Press
出版年 | 2023 年

私が過去に読み込んだ本は、専門書と漫画を除けば数冊しかありませんが、小学生のときに読み込んだ山岡荘八の『織田信長』（株式会社講談社）は印象深いです。私は小学生の頃から信長マニアで、これまでに単行本やテレビドラマ、さらに映画などで様々な信長に出会ってきましたが、私の理想の信長像は山岡荘八によって描かれた信長です。本書は、全五巻（無門三略の巻、桶狭間の巻、侵略怒濤の巻、天下布武の巻、本能寺の巻）から成り、信長と秀吉、そして濃姫の関係性が心地よく描かれています。特に濃姫はとても小賢しく描かれており、私は濃姫に恋心を抱いたのをよく憶えています。そのため、10代の頃は理想の女性像を問われると“濃姫”と即答し、“濃姫のような女性と結婚するんだ”と友人たちに宣言していたほどです。しかし、それから40年ほど経ちましたが、濃姫のような女性是我的目の前には現れず、未だに独身を貫いています（笑）。

冗談はさておき、私が今回『君に薦める一冊の本』は、深川良一（立命館大学名誉教授）編集の『INTENSIFIED SEDIMENT DISASTERS IN JAPAN -THE 2011 KII PENINSULA TORRENTIAL RAIN DISASTERS』（CRC Press）です。2011年、台風12号の記録的な豪雨により、紀伊半島の広域に甚大な土砂災害・水害をもたらされました（紀伊半島大水害）。その後、（公社）地盤工学会関西支部、（一社）日本応用地質学会、関西地質調査業協会、中部地質調査業協会の4学協会により、『「想定外」豪雨による地盤災害への対応を考える調査研究委員会』が設置され、被害実態の把握、災害メカニズムの解明、避難・防災対策の提案などを目指して活発な調査研究活動が展開されました。本書は、同委員会の活動成果を纏めたもので、私は8章『Disaster-Prevention and Mitigation Measures Following the Kii Peninsula Disaster』を執筆しました。本章では、紀伊半島大水害を契機に行われるようになった、主にソフトウェア対策を中心とした防災・減災の取り組み事例（地方自治体や道路・鉄道事業者の取り組み事例）について纏めましたが、この中で私は図々しくも奈良県十津川村と大阪工業大学が連携協定を締結し、私の研究室（地盤防災研究室）が中心となって「豪雨時深層崩壊危険度の監視活動」に取り組んでいることを紹介しています。

近年、世界各地で豪雨を起因とする大規模な土砂災害・河川災害が発生しており、自然災害外力が増大していることを実感させられます。本書を通じて、同委員会の活動成果が世界中で共有され、防災・減災力の体系的かつ相乗的な向上につながることを期待しています。

図書館からのお知らせ

2023年度 図書館利用状況

大宮本館・梅田分館・枚方分館の利用統計は下表のとおりです。
感染症防止のため、昨年まで実施しておりました一部の利用制限が、10月に解除されたことなどから、利用状況も平常に戻りつつあります。

大宮本館は7月の移転・新規オープンにより設備も充実し、入館者が大幅に増加しました。閲覧スペースで自主学習に励む学生の姿も多く見られ、オンライン面接などの就職活動やプロジェクト活動でのラーニング commons の活用も増加しています。

2024年度も、ぜひ各図書館をご利用ください。

区 分		大宮本館	梅田分館	枚方分館	合 計
開館日数	2023年度	265日	284日	284日	—
	2022年度	286日	286日	286日	—
	2021年度	286日	284日	286日	—
入館者数	2023年度	89,710人	60,428人	19,054人	169,192人
	2022年度	35,303人	53,011人	20,503人	108,817人
	2021年度	25,470人	39,958人	15,222人	80,650人
1日あたりの平均入館者数	2023年度	339人	213人	67人	619人
	2022年度	126人	185人	72人	383人
	2021年度	91人	141人	53人	285人
貸出者数	2023年度	8,248人	2,228人	2,869人	13,345人
	2022年度	7,496人	2,109人	2,993人	12,598人
	2021年度	6,345人	2,066人	2,696人	11,107人
貸出冊数	2023年度	15,153冊	3,710冊	4,892冊	23,755冊
	2022年度	14,025冊	3,601冊	5,516冊	23,142冊
	2021年度	12,203冊	3,634冊	5,443冊	21,280冊

大阪工業大学図書館報「ぱびろにくす」No.124 (2024.7)

編集発行 大阪工業大学図書館

〒535-8585 大阪市旭区大宮 5 丁目 16-1 TEL 06-6954-4108 FAX 06-6953-9499